

『食卓での楽しい会話』は、何よりのごちそう！



触覚・嗅覚・味覚を意識した会話も大切です。

どんな感じ？ どんな匂い？ どんな味？ どんな音？ …表現を促してみましょう。

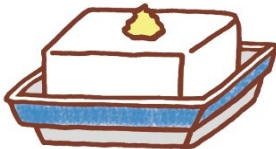


実際に食べながら表現できる言葉は、絵本や画像と違い、しっかりと理解し、身に付き、語彙力の向上に役立ちます。

★ 口当たり(歯ざわり)を表現してみよう

食材の口当たりや歯触り、手触りを想像したり、実際に食べてみて、言葉で表現できるように促してみましょう。また、「りんご」や「きゅうり」など、噛んだときに音が出る食材の音の表現もよいでしょう。日本語には触覚を表す言葉がたくさんありますね。

とうふ



《表現例》

つるつるしている、冷たい
やわらかい、なめらか、
すぐ歯でくずれる、
とけそう など

ラーメン



《表現例》

つるつるしている、
温かい、熱い、
やわらかい、なめらか、
こしがある など

りんご



《表現例》

シャキシャキしている、
シャリシャリしている、
冷たい、
かたい など

★ 匂いや味を表現してみよう

実際の食材やいらすと、写真などをみて、想像するのも楽しい会話につながります。みかんなどでは、すっぱかったり甘かったり、個体差があることも理解できるといいですね。

たまねぎ



《匂いの表現例》

ツーンとした匂い、
いい匂い、
目にしみる、
土の匂い など

《味の表現例》

辛い、甘い、
しょっぱい など

レモン



《匂いの表現例》

さわやかな匂い、
いい匂い、
フレッシュな匂い など

《味の表現例》

すっぱい など

納豆



《匂いの表現例》

臭い、こぼしい匂い、
腐ったような匂い、
生臭い など

《味の表現例》

しょっぱい、腐ったような味
しょうゆの味 など



ママ～！ おさかな、あまずっぱくて、
おいしいよ！ ケチャップのあじだね。